

伏見区基本計画2025（案）

令和2年12月21日

1 はじめに

(1) 伏見区基本計画 2025 (案) について

Q どんな内容の計画ですか？

A 平成 23 年 (2011 年) に策定した第 2 期の「伏見区基本計画」を受け継ぎ、令和 3 年度 (2021 年) から令和 7 年 (2025 年) までの概ね 5 年間の伏見区のまちづくりの指針となる計画です。計画では、めざすまちづくりの将来像に、水と緑と温もりのまち「伏見ですむ」を掲げ、子どもからお年寄りまで「住みたい」「住み続けたい」「訪れたい」と実感でき、地域力・福祉力に満ちた伏見のまちを目指して、区民、各種団体、地域企業、高校、大学などの教育機関、NPO などと、行政が緊密に連携して、取り組む内容を掲げています。



祝 令和 3 年(2021 年)4 月で、伏見区誕生 90 周年！
次の伏見区 100 年を見据えた持続可能なまちづくりも推進。

(2) 京都市の総合計画における伏見区基本計画 2025 (案) の位置付け



2 伏見区基本計画 2025（案）の策定背景

平成 23 年に策定した第 2 期の「伏見区基本計画」の策定後の人口減少などの社会情勢の変化、文化庁の京都移転を契機にした地域文化力への関心の高まり、国連の持続可能な開発目標（SDGs）、各地で多発する自然災害、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行など、あらゆる危機にしなやかに粘り強く対応しながら、より良い発展を目指すレジリエンスの理念をしっかりと踏まえ、持続可能な伏見のまちづくりを進めるために策定するものです。

【第 2 期の「伏見区基本計画」の将来像など】

● 伏見区の将来像

水と緑と温もりのまち「伏見ですむ」

私たちはこんな伏見に住みたい、 住み続けたいと思います

山の緑、青い空、ゆるやかな川の流れが **澄み** わたり、
この豊かな自然の温もりに包まれて、多彩な歴史と文化を育み、多様な生活圏を持つまちに、人々が元気に動き、交流し、多様な動植物と共に **住む**。
暮らしと働く場が共にあり、暮らしにかかわるあらゆるものが地域内で循環し、いろいろなことが区内で **済む**。
これからもずっと、やさしく生き物を包み込み、多様な人々の活動を見守るそんな伏見のまちであってほしい。

● 「伏見ですむ」3つのまちづくりの基本目標

伏見区の将来像の実現に向けて、「伏見ですむ」3つのまちづくりの基本目標を設定しました。



【この間の社会情勢などの変化】

環 境

- ◆地球温暖化の加速
- ◆食品ロス、プラスチックによる海洋汚染

魅 力

- ◆新型コロナウイルス感染症による区民や企業を取り巻く環境の激変
- ◆違法民泊、オーバーツーリズム問題

共 生

- ◆地域コミュニティの希薄化
- ◆新型コロナウイルス感染症の世界的大流行、ウイルス対策に係る生活様式の変化
- ◆災害の多発化、被害の甚大化
- ◆潜在化する社会的孤立問題、高まる介護ニーズ、8050 問題
- ◆「障害者」、「ヘイトスピーチ」、「性の多様性」等の人権問題

少子化による人口減少・人生百年時代の到来

分野横断的な視点

地域文化力

SDGs

レジリエンス

3 めざすまちづくりの将来像

□伏見区の将来像

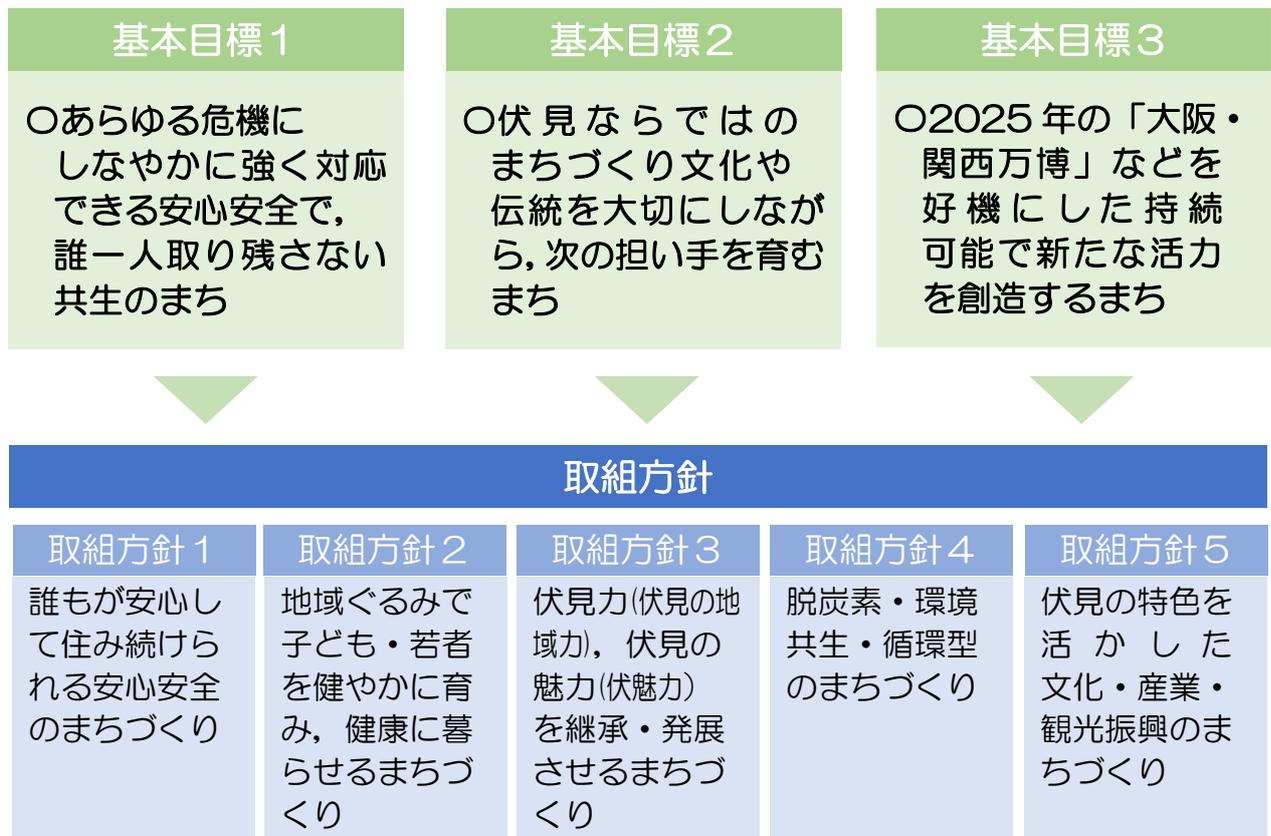
水と緑と温もりのまち「伏見ですむ」

～子どもからお年寄りまで「住みたい」「住み続けたい」「訪れたい」と
実感でき、地域力・福祉力に満ちた伏見のまちを目指して～



□まちづくりの基本目標と取組方針

「伏見区の将来像」の実現に向けて、「まちづくりの基本目標」と「取組方針」を設定し、今後5年間の伏見のまちづくりを区民の皆様をはじめ、各種団体、地域企業、大学などの教育機関、NPOなどと行政がしっかりと連携し、取り組んでいきます。



伏見区内の地域別のまちづくりの取組方針もそれぞれ設定します。詳細はP10ページを参照。

(1) 旧伏見市・竹田・桃山地域、(2) 下鳥羽・横大路・納所・淀地域、(3) 久我・久我の杜・羽束師地域、(4) 向島地域、(5) 深草地域、(6) 醍醐地域

□重点戦略を設定

伏見区基本計画 2025（案）に掲げる「伏見区の将来像」の実現を目指しつつ、持続可能な伏見のまちづくりを進めるため、基本計画に掲げる各分野の取組方針を融合しながら、今後5年間で重点的に進めるものを「重点戦略」とします。

●住みたい、住み続けたいまち・伏見プロジェクト(仮称)

(取組イメージ)

- ・事業者や大学等と連携した伏見で住む魅力発信(地域の魅力再発見)
- ・豊かな自然が身近にあり、安心安全に暮らせる伏見の魅力発信

など



●次代の伏見の担い手育みプロジェクト(仮称)

(取組イメージ)

- ・多様な地域コミュニティとの連携促進による世代を超えた相互交流の推進
- ・伏見の歴史資源や地域産業(酒造業等)を活用した学びの場と学びを活かした実践の場の提供

など



●伏見の地域経済の活力創造プロジェクト(仮称)

(取組イメージ)

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大を予防する「新しい生活スタイル」に対応し、安心安全に買い物や観光を楽しめる伏見のPR
- ・2025年の「大阪・関西万博」や伏見港のみなとオアシスへの登録を契機にした府市協調で官民連携のオール伏見による賑わいの創出、伏見の地域経済の活性化

など



取組方針 1

誰もが安心して住み続けられる安心安全のまちづくり

誰もが安心して暮らすことのできる環境が整い、「住み続けたい」と実感できる安心安全なまちづくりを目指します。

また、安心安全なまちづくりとあわせて、「住む、住みたいまち・伏見」としての魅力発信を事業者、大学などと行政が連携して行い、伏見での移住・定住促進を図ります。

取組 1 私たちは安心安全に暮らせるまちづくりを進めていきます

- 地域ぐるみの防災・減災，交通安全，防犯対策の推進
- 安心安全に暮らせる環境の整備
- あらゆる危機からいのちと暮らしを守る危機管理体制の強化

取組 2 私たちは人と公共交通優先の「歩いて楽しいまちづくり」を進めます

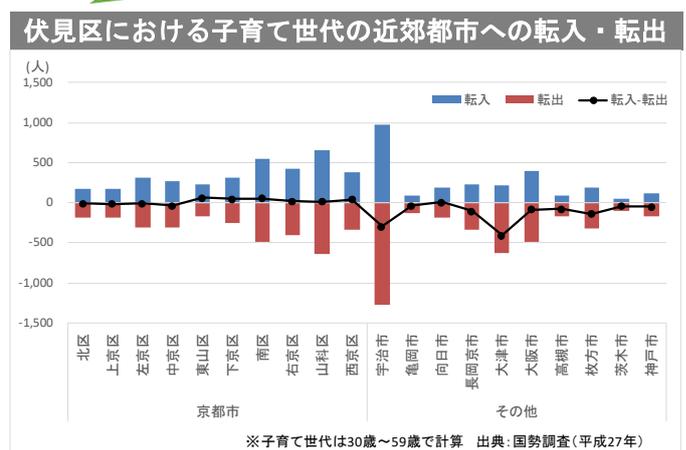
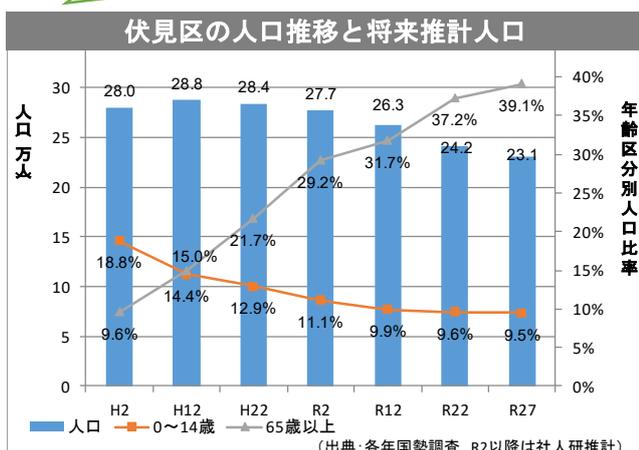
- 公共交通の利用の推進
- 安心安全・快適な歩いて楽しいまちづくりの推進
- 地域特性に応じた持続可能なまちづくりを実現する公共交通ネットワークの形成

取組 3 私たちは伏見に「住みたい」、「住み続けたい」と実感できるまちづくりを進めます

- 伏見ならではの歴史や文化，地域資源を活かしたまちづくりの推進
- 「住む、住みたいまち・伏見」の実現に向けた事業者，大学などとの連携による定住・移住促進の推進
- 伏見に愛着・関心を持つ「伏見ファン」の獲得に向けた伏見と出会うきっかけづくり

伏見区の人口は平成 12 年をピークに、ほぼ横ばいで推移していますが、令和 27 年には 5.7 万人の減少（△19.8%）が予測されています。（京都市全体では平成 27 年をピークに、令和 27 年には 17.8 万人の減少（△12%）が予測。）

伏見区における子育て世代の転入・転出の状況は、全体で 2,400 人以上の転出超過がみられます。近郊都市に対しての動き方では、宇治市や大津市に対して転出超過の傾向が強く表れています。



取組方針2

地域ぐるみで子ども・若者を健やかに育み、健康に暮らせるまちづくり

子どもからお年寄りまであらゆる世代が誰一人取り残されることなく、それぞれの地域での見守りや支え合いの中で豊かな暮らしを送ることができるまちづくりを目指します。

地域ぐるみで子ども・若者を健やかに育むとともに、サポートを必要とする区民を支える仕組みづくりを進め、区民一人ひとりが健康づくりや学びの活動に取り組み、豊かな暮らしを送ることのできる機会を創出します。

取組1 私たちは地域ぐるみで子ども・若者を健やかに育むまちをめざします

- 安心して妊娠・出産・子育てできる環境づくり
- 子育て家庭や子ども・若者が安心して過ごせる居場所づくり
- 子育て家庭や子ども・若者に寄り添う、地域ぐるみでの「はぐくみ文化」の普及

取組2 私たちは健康に暮らせるまちをめざします

- 区民の自主的な健康づくりの推進
- 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる地域福祉の推進
- 地域企業やNPO、大学等、多様な主体と行政の協働による地域福祉の推進

取組3 私たちは誰もがいきいきと学び・活躍できるまちをめざします

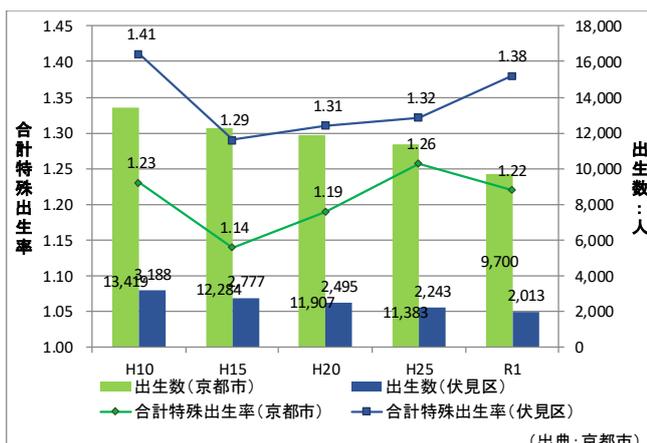
- 地域の図書館や学校施設等を核とした生涯学習や文化交流の推進
- 「学び」による伏見の魅力の再発見・発信
- 区民がスポーツやレクリエーションを楽しむ環境づくり



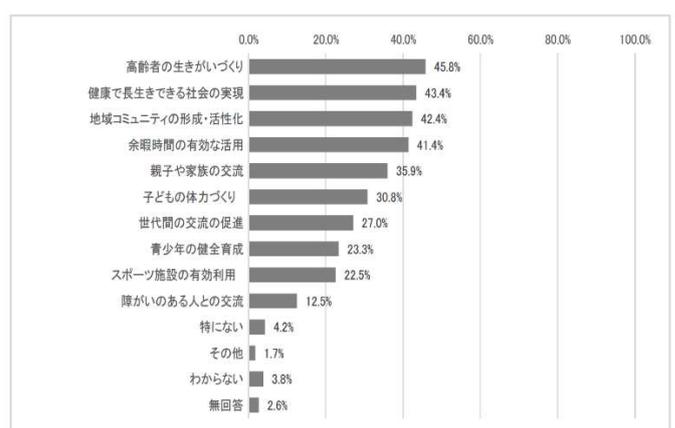
伏見区の合計特殊出生率は京都市平均を上回って推移していますが、出生数の減少（＝少子化）は今後も続く見込まれます。このため、次代を担う子どもを地域全体での育む取組は、まったなしの状況です。

運動やスポーツへの取組をさかんにするにより、「高齢者の生きがいづくり」「健康で長生きできる社会の実現」「地域コミュニティの形成・活性化」などに効果があると考えられています。

伏見区の出生数と合計特殊出生率の推移



京都市民がスポーツ振興に期待する効果



(出典:市民のスポーツに関する意識・活動状況調査 H27)

取組方針3

伏見力（伏見の地域力）、伏見の魅力（伏魅力）を継承・発展させるまちづくり

伏見ならではの強みである個性豊かな多様性、活発な区民活動や地域の結びつきである「伏見力（伏見の地域力）」と、伏見の歴史資源や生活文化などの「伏見の魅力（伏魅力）」をしっかりと継承しながら、さらにその強みを発展させるためのまちづくりを目指します。

取組1 私たちは多様な個性を尊重し合う人権文化が根付く共生型社会の実現をめざします

- 互いを尊重し合う人権文化の醸成
- 多文化共生・多世代が交流できるまちづくりの推進

取組2 私たちは多様な地域コミュニティの活性化、市民活動を促進する環境づくりを進めます

- 誰もがつながり、支え合う多様な地域コミュニティの活性化
- ICT（情報通信技術）などを活用した地域活動に参加しやすいきっかけづくり
- 地域団体、市民活動団体、地域企業など、多様な地域コミュニティの連携促進と自主・自律的な活動支援

取組3 私たちは地域の魅力を学び、育み、次世代へ伝えます

- 歴史、自然資源、地域産業（酒造業等）を活用した伏見の魅力の継承・発展
- 高校、大学などの教育機関と地域団体などとの連携促進
- 伏見の歴史や文化を学び、実践できる場づくりを通じた次世代の担い手育成

伏見区内には高校や大学が多く立地し、地域コミュニティと連携したまちづくり活動が増えてきています。

地域の住民だけでなく、多様な立場の人が連携することによる地域コミュニティの活性化が求められます。



伏見区内の教育機関とのまちづくりに関する協定締結事例

- 伏見区南部のまちづくりにおける教育機関との包括協定（令和2年3月）
 - ・向島を中心とした南部エリアでの「住んでよし」「訪れてよし」「働いてよし」「未来よし」の持続可能なまちづくりを推進するため、伏見区役所と京都文教大学・文教短期大学、京都府立京都すばる高等学校がそれぞれ包括協定を締結
- 龍谷大学・田中宮市営住宅自治会・京都市による「公共空間利活用と周辺地域活性化にかかる連携協定」（令和元年4月）
 - ・地域における自治会の担い手不足が深刻な問題となっている中、龍谷大学の学生が市営住宅に入居し、暮らしながら自治会活動にも参加することで地域コミュニティの活性化を図ることを目的として協定を締結

まち・ひと・ところが織り成す京都遺産に「京と大阪をつなぐ港まち・伏見」が登録（令和2年3月）。

- 【主な構成遺産】
- 水路と街道
 - 良質な水と酒造り
 - 城とまちなみ
 - 受け継がれる文化
 - 豊かな自然と信仰



清酒

酒造りは伏見を代表する一大産業であり、造られる清酒は口当たりが柔らかいことから、灘の男酒に対し女酒と呼ばれている。



伏見港公園



十石舟、三十石船

秀吉は伏見城の建築資材の運搬等を目的に宇治川の付け替え工事を実施し、伏見港を形成。大阪との水運拠点として三十石船などの旅客船も往来。高瀬川の整備で京・伏見・大阪を一本の水路で結び、さらに琵琶湖疏水の開通で大津まで結ぶ水運ルートが完成。昭和37年（1962）まで舟運は活用されるなど、伏見港は日本最大の内陸河川港であった。

取組方針4

脱炭素・環境共生・循環型のまちづくり

伏見区には令和元年にオープンした「さすてな京都（京都市南部クリーンセンター環境学習施設）」をはじめ、「みやこエコロジーセンター（京都市環境保全活動センター）」など、先進的な環境学習施設や環境関連施設があり、区民による環境負荷の低減に向けた活動も活発に行われています。

区民一人ひとりの脱炭素・環境共生・循環型のまちづくりに対する思いや行動を、地域、学校、企業など身近な単位で実践する取組を進めます。

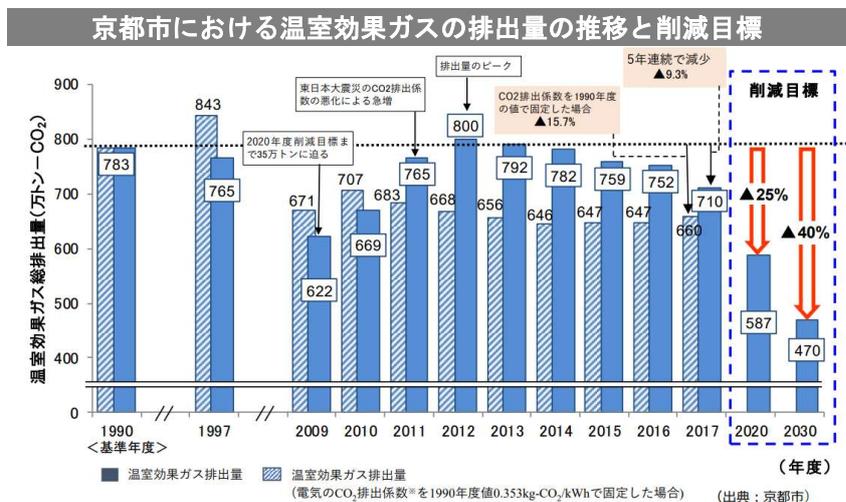
取組1 私たちは脱炭素・環境共生・循環型の暮らしを実践します

- 脱炭素・環境共生・循環型の暮らしに向けた、みんなごとでの取組の実践
- 環境学習施設と区民、事業者等が連携した環境学習の推進

取組2 私たちは水（河川）、緑（里山）と共生するまちを次代に継承します

- 多様な動植物が生息する河川や里山等の自然環境の保全、活用
- まちなかの緑化など緑豊かな環境づくり

地球温暖化の状況は加速しており、世界の平均気温は上昇しています。京都市では2013年度以降、温暖化の要因となる温室効果ガス排出量は減少に転じています。ただし、削減目標の達成に向け、これまで以上の対策が必要な状況です。



伏見区には、令和元10月にオープンした「さすてな京都（京都市南部クリーンセンター環境学習施設）【写真】」をはじめ、水環境保全センターなど環境関連施設・環境学習施設が多く立地。先進的な環境学習や環境負荷の低減に向けた地域活動が活発に行われています。



取組方針5

伏見の特色を活かした文化・産業・観光振興のまちづくり

伏見区は、豊かな水に恵まれ、交通の要衝であるなどの強みがあります。また、酒造業や農業、観光業、先端産業をはじめ多種多様な産業活動が展開されており、京都の活力をけん引しています。

今後も、各々の産業の振興を図るとともに、伏見区の特色や地域とのつながり、企業間のつながりを強め、新たな文化・産業の創出や持続可能な経済の好循環を生み出す取組を進めます。

取組1 私たちは地域とともに持続的な発展を目指す産業を応援します

- 新型コロナウイルス感染症で大きな影響を受けた伏見の地域経済の再生に向けた取組の支援
- 地域企業や生産者等と連携した伏見ならではの魅力を活かした賑わい創出、持続可能な経済好循環づくり
- 伏見の食文化を継承するための地産地消の促進

取組2 私たちは地域の潜在能力を活かした産業振興をめざします

- 地域との共存共栄や雇用の創出を大切にした産業振興
- らくなん進都を中心としたオフィスや研究施設など、ものづくり拠点の集積・誘致推進、意欲のある起業家のスタートアップ支援

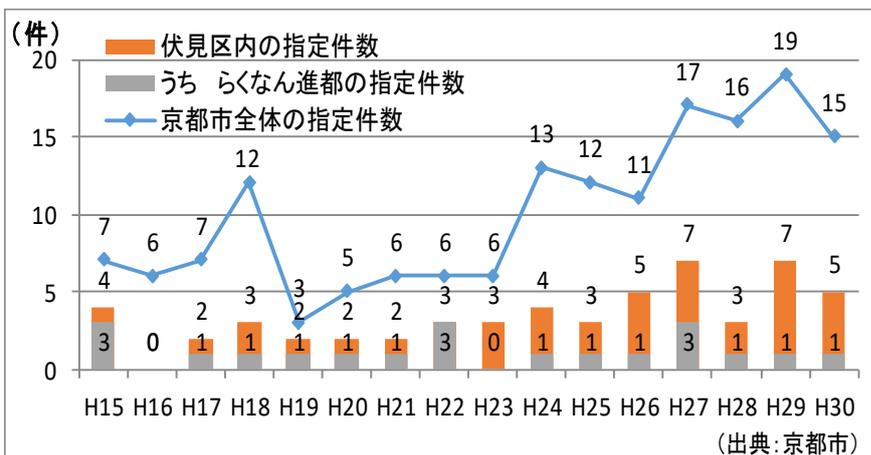
取組3 私たちは伏見の多様で魅力的な歴史的資源を活かし、持続可能な伏見の観光モデル構築をめざします

- 地域と観光客が共存共栄する持続可能なまちづくりの推進
- 伏見の立地を活かし、近隣自治体、事業者等と連携した伏見版の都市型観光ネットワークの構築
- 港町、名水など、多様で魅力的な歴史的資源を活かした伏見のブランドイメージの構築

伏見区と南区にまたがる「らくなん進都」では、京都の新たな活力を生み出す産業集積の地域を目指し、世界に通用する技術力を有するものづくり企業等の立地が進んでいます。



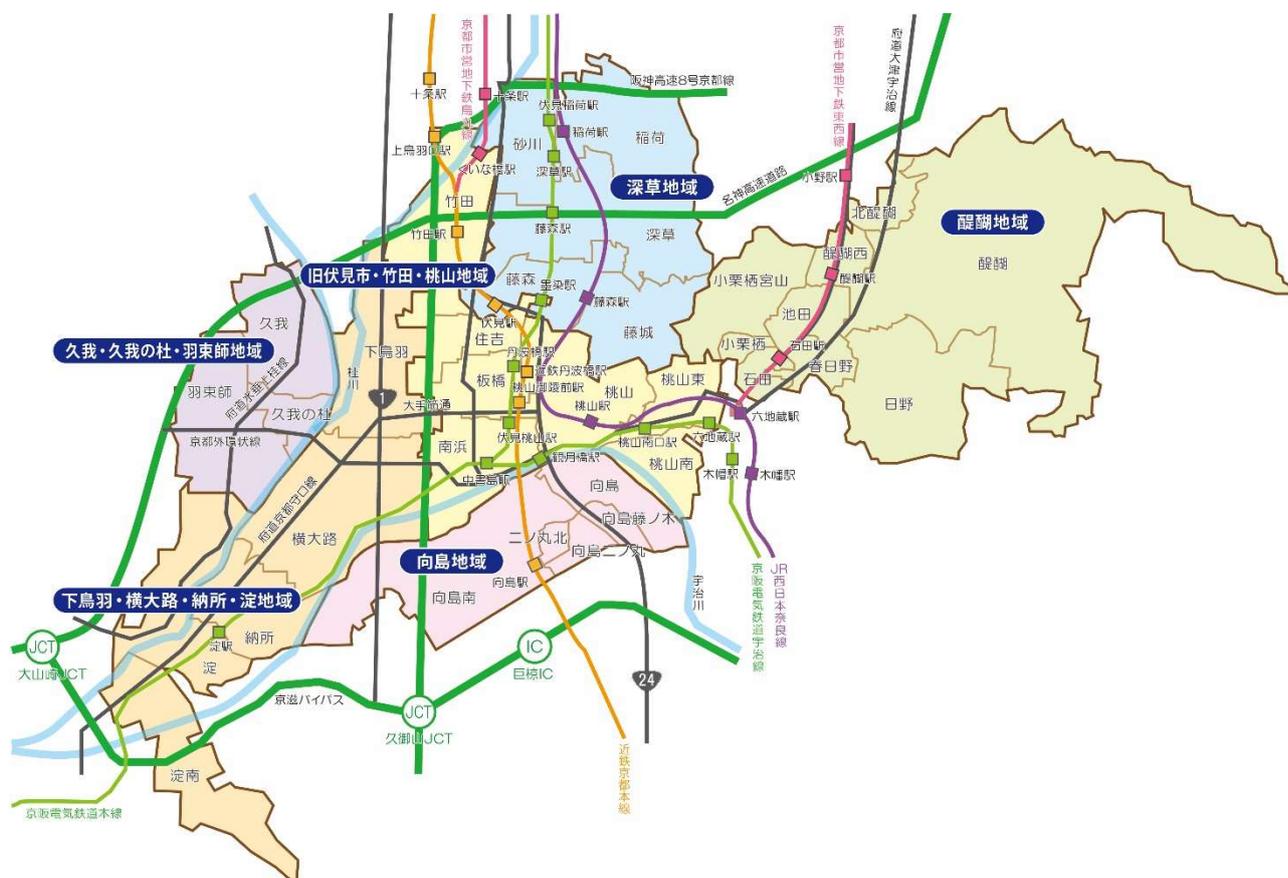
京都市企業立地促進制度 年度別の指定件数状況



地域別のまちづくりの取組方針

地域の特性を活かし、伏見で「住みたい」「住み続けたい」「訪れたい」という想いを実現するまちづくりを進めます。

旧伏見市・竹田・桃山地域	“みんなが見たい、聞きたい、話したい” 歴史がいきづく元気なまち
下鳥羽・横大路・納所・淀地域	私たちがつくる 地域の歴史と文化が輝き みんなが安心して暮らせるまち
久我・久我の杜・羽東師地域	多世代が安心安全に住め 誰もが好きになれるまち
向島地域	“温もりとつながり”で支え合う 安心と福祉のまち
深草地域	豊かな自然・歴史・交通を活かし、そこに人が交わり、 心豊かに暮らせるまち
醍醐地域	みんなが参加し、地域で支え合う希望と笑顔が満ち溢れるまち



旧伏見市・竹田・桃山地域

豊かな緑に抱かれ、太閤 豊臣秀吉が築いた城下町。京の都を北に望み、清冽で豊かな湧水と水運を背景に、政治・経済の中心として繁栄を極めた地。酒蔵と古い街並みをとどめる地域を一層活性化させるために、商店街等をはじめとする「伏見の町衆」の力を結集していきます。

まちづくりの取組目標（合言葉）

“みんなが見たい、聞きたい、話したい”歴史がいきづく元気なまち

取組方針

◆住民力の結集と誰もが参画できる地域づくりによる活気あるまちづくり

- ・ 住民同士や住民と子どもたちが気軽に交流できる場所づくり（学校と地域の連携強化）
- ・ 若い世代が地域コミュニティの担い手として参加しやすい機会づくり
- ・ 伏見観光協会を中心とした歴史まちづくりの推進

◆暮らしの中にいきづく身近な自然環境や歴史・文化などを

次の世代に受け継ぐまちづくり

- ・ 自然環境との共生の大切さを学び、持続可能なまちづくりにつなげる場づくり
- ・ 歴史資源・地域の魅力ある資源を学べる機会づくり（区民による伏見の歴史文化の案内等）
- ・ 魅力的な水辺の環境づくり（濠川、宇治川派流沿い、東高瀬川の水辺環境の魅力向上）

◆地域の魅力や資源をアピールし、人が集い賑わいを創出するまちづくり

- ・ 港町、名水、酒蔵などの地域の魅力や資源を活かした賑わいづくり
- ・ 今後の伏見を担うものづくり拠点の誘致などを通じた地域経済の活性化

下鳥羽・横大路・納所・淀地域

^{いにしえ}古から京都と大阪を結ぶ交通の要衝であったこの地域は、今も広域交通網の要衝であり、また、京都の環境共生の要を担う地域、新しい京都を発信するものづくり拠点として、重要な役割を果たし続けています。横大路地域を中心とする「伏見ルネッサンスプラン」の取組や淀城跡を中心とするまちづくりの取組などを踏まえつつ、地域で受け継がれてきた歴史や文化、地域のつながりを大切にしながら、子どもから大人までみんなが安心して暮らせるまちを築いていきます。

まちづくりの取組目標（合言葉）

私たちがつくる 地域の歴史と文化が輝き みんなが安心して暮らせるまち

取組方針

◆地域と人のつながり（ふれあい・見守り）を大切にしたい

安心・安全なまちづくり

- ・ 子どもから大人まであらゆる世代が連携した地域ぐるみでの安心安全、防災活動の推進
- ・ 日頃のあいさつ、声掛け、見守りなどを通じた地域コミュニティの横のつながりづくり
- ・ 地域の人たちのつながりや交流のきっかけとなるふれあい活動・イベント等の実施

◆地域の歴史資源や地域産材の豊かさをアピールし、

次世代につなげるまちづくり

- ・ 地域の歴史や文化を知り、学び、地域の魅力や愛着を育てることができる場づくり
- ・ 地域の農産物（地場野菜）の活用（近隣農地で栽培された地場野菜（淀大根、九条ねぎ）や加工品等の販売、朝市等の開催）
- ・ 地域が一丸となり、まちづくり機運を盛り上げるイベントの開催と発展（横大路まちづくりフェスティバルなど）

◆環境共生と地域の経済成長が両立する持続可能なまちづくり

- ・ 環境学習（さすてな京都など）によるごみの排出抑制、リサイクルの徹底等による環境共生の実践
- ・ 今後の伏見を担うものづくり拠点の誘致などを通じた地域経済の活性化
- ・ 堤防や河川敷など、人に身近な水辺環境の美化、清掃活動

久我・久我の杜・羽束師地域

「久我・久我の杜・羽束師地域まちづくり協議会」を中心に、地域住民と事業者、行政の協働で、誰もが何世代にもわたって、安心して安全に住み続けられるまちづくりをめざします。

まちづくりの取組目標（合言葉）

多世代が安心安全に住め 誰もが好きになれるまち

取組方針

◆人と人のつながり（交流・見守り）や地域の活動を大切にしたまちづくり

- ・ 子どもから大人まで、住民同士が交流し憩える場づくり（久我・久我の杜・羽束師地域まちづくり協議会を中心とした「健康・福祉まつり」など、幅広い世代が参加し、交流できる機会づくり）
- ・ 地域全体での子どもたちへの声掛け・見守り・育み（見守り隊活動への幅広い世代の参加を促す仕組みづくりなど）
- ・ 地域と学校の連携を密にしたまちづくり（学校運営協議会等を通じた顔の見える関係づくり）

◆住民の力が発揮され、安心・安全で健やかに住み続けられるまちづくり

- ・ 「久我・久我の杜・羽束師地域の総合的なまちづくりビジョン」の実践
- ・ 安心・安全な暮らしができるまちづくりの促進（まちづくり協議会の「防災部会」を中心とした取組など）
- ・ 地域ぐるみでの健康長寿の推進（健康体操の実施など）

◆身近な自然や歴史・文化を大切にし、次世代につなげるまちづくり

- ・ 地域の歴史や文化を学び、地域に関心や愛着をもつ機会づくり（地域団体や大学と連携した「伏見連続講座」の開催、まち歩きなど）
- ・ 身近な自然環境を守るための美化活動等の推進（河川や水路、農地周辺の美化・清掃活動）

向島地域

向島の5学区が連携し、地域のつながりや活性化、健康福祉、多文化多世代が共生するまちづくりを目指す「向島まつり」などの取組を通じ、向島地域の魅力を発信し、若者世代の定住を図るとともに、人々の「温もりとつながり」をキーワードに、まちづくりを進めていきます。

まちづくりの取組目標（合言葉）

“温もりとつながり”で支え合う 安心と福祉のまち

取組方針

◆誰もが元気で健やか、安心安全に暮らせるまちづくり

- ・ 向島地域の立地を生かした若者世代の定住促進
- ・ 地域の安心安全、防災対応に関わる担い手づくり
- ・ 高齢者（独居者）や要介護者などへの声掛け、見守り、身近な相談の場づくり等の取組

◆豊かな暮らしを支える活発な多世代の交流があるまちづくり

- ・ 地域の子どもと大人が気軽に触れ合い、普段から顔の見える関係づくり（地域の大人と中学生が語り合う「しゃべり場」など）
- ・ 地域の賑わい創出、多文化多世代が共生できる場づくり（「向島まつり」の開催、元向島二の丸小学校跡地を活用した教育研修施設兼寄宿舍「京都志塾・心塾」のアフリカ留学生等との交流など）
- ・ 高齢者が元気になれる活動の場や健康の場づくり（趣味、文芸講座の開催など）

◆まちに身近な自然や地域の歴史資源を大切にし、

地域産材等を活かしたまちづくり

- ・ 地域の高校、大学と区役所との包括協定を契機に、高校や大学の知見を活かした向島の歴史や文化の魅力を伝え、次世代に受け継ぐ取組（高校や大学と連携した「伏見連続講座」の開催など）
- ・ 地域の農産物の販売等を通じた地産地消の取組（向島駅前・青空朝市など）

深草地域

古代からひらけ、悠久の歴史を有する深草地域。東部には、稲荷山など竹林を中心とする緑豊かな丘陵が広がり、中央部には疏水が南北を貫き、その周辺部には、十六師団が駐留した古くからのまちなどが形成され、そこには大学、高校などの教育機関や医療施設が立地しています。

地域住民や各種団体、教育機関等と一体となって、自然を守り活かす取組を更に推し進めるとともに、にぎわいのあるまちづくりを着実に進めていきます。

まちづくりの取組目標（合言葉）

豊かな自然・歴史・交通を活かし、そこに人が交わり、心豊かに暮らせるまち

取組方針

◆「地域」と「ひと」のつながり（交流・絆）が実感できる安心安全なまちづくり

- ・ 誰一人取り残さない地域ぐるみの安心安全のまちづくり
- ・ 多世代や多様な主体・団体、大学や高等学校等の交流・連携による地域活動の活性化
- ・ 子育て世帯を温かく迎えるとともに、地域ぐるみの子どもはぐくみや健康長寿を推進するまちづくり

◆移住・定住を促進して「まち」・「ひと」の活力あふれるまちづくり

- ・ 利便性や歴史・文化・自然等の深草の魅力や優れた住環境の発信と体感による移住の促進
- ・ 事業者、地域、大学等の連携による地域の課題解決や域内経済循環の仕組みづくり
- ・ 「地域コミュニティ」と「文化」、「観光」の共存による地域活性化

◆まちの身近な自然、里山や歴史・文化など、

環境の豊かさを享受でき、活性化につなげるまちづくり

- ・ 店舗や農業、企業、大学、住民等の地域ぐるみで里山づくりと魅力発信
- ・ 大岩街道周辺地域の良好な環境づくりの推進（まちづくり方針の具体化）
- ・ 地域文化の保全・継承・創造

醍醐地域

東と西に広がる緑豊かな山並み。まちの中央を流れる山科川。古くから京都・奈良・近江をつなぐ道が拓かれ、世界文化遺産の醍醐寺をはじめ古刹・名刹が点在するこの地域は、今は多くの公営住宅や民間マンションが立地するようになりました。

地域の足となる住民が主体となったコミュニティバスの運行、安心安全なまちづくりのたゆまぬ取組など、地域が持つコミュニティの力をより一層高め、幅広い世代が活躍し、互いに支え合う希望と笑顔が溢れるまちづくりを進めます。

まちづくりの取組目標（合言葉）

みんなが参加し、地域で支え合う 希望と笑顔が満ち溢れるまち

取組方針

◆地域コミュニティを基軸とした安心安全な暮らしを

地域と人が支え合うまちづくり

- ・ 高齢者や若者等あらゆる世代が交流し憩える場づくり
- ・ 次代を見据えたまちづくりの担い手づくりと地域活動の更なる活性化
- ・ 防災・防犯対策の推進等による安心安全のまちづくり

◆コミュニティバスを活かしたまちづくり

- ・ コミュニティバスの利用促進を通じた地域の活性化
- ・ 地域の魅力的な歴史資源等を活用した観光振興

◆身近な自然環境を大切にしたまちづくり

- ・ 美しい環境を守るための美化活動等の取組
- ・ 自然環境を生かした環境教育等の取組